

|   |           |                                    |
|---|-----------|------------------------------------|
| 1 | 審議会名      | 平成26年度第1回西部公民館運営審議会                |
| 2 | 日時        | 平成26年7月1日(火)午後7時00分から午後9時00分まで     |
| 3 | 会場        | 上田市西部公民館1階大ホール                     |
| 4 | 出席者       | 田村保会長、清水文彦副会長、工藤典子委員、小岩井礼子委員、南澤威委員 |
| 5 | 市側出席者     | 水野館長、中山次長、小山主査、清水社会教育指導員、柳澤社会教育指導員 |
| 6 | 公開・非公開等の別 | 公開                                 |
| 7 | 傍聴者       | 0人 記者 0人                           |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成26年7月2日                          |

## 協議事項等

## 1 開 会(事務局)

## 2 田村会長あいさつ

最近の事件などを見ていると、今の子どもたちだけでなく、大人も含めて最後のプレーキが効かないのはなぜか。我々の子どもの頃は、ヒーローがいて、人の生き方や正義などしっかり学ぶことができた。今の子どもたちの「心のベース」は何なのか。今は、ゲームの世界の中に、心のベースを求めている。しかも、それは攻撃的なものが多い。最後のプレーキが効かない原因がそこにあるのではないか。教科書を調べてみたら、小学校5年生から初めて伝記が出てくる。ここで人として生きることについて学ぶことになるのだが、できれば、もっと早い時期から、心が豊かに広がって、心にしっかりと留まるようなことを教えたらどうかと考えている。このことは、学校の先生方に話をしたいと思っている。

## 3 審議事項

## (1) 平成26年度事業計画について

(事務局)一括説明

(委員)6月28日に実施した「太郎山・虚空蔵山縦走路整備」の参加者は何人か。

(事務局)参加者は18人であり、熱心に作業していただいた。次回は、8/23に予定している。

(委員)長年活動している縦走路整備への取組には大変関心している。整備のおかげで登山道が確保され、地元の里山に安全で登りやすくなった。皆で感謝している。

(委員)太郎山・虚空蔵山は西部公民館のメイン事業である。太郎山は表参道と裏参道を利用する人がほとんどであるが、最近は虚空蔵山から登る人も増えている。困ることは、車を停める場所がないことで、私有地への無断駐車などで迷惑している人もいる。太郎山は生物学的にも面白いものがいっぱいあって、蝶を追いかけて歩いている人もいる。今後は駐車場をどうするかが問題である。

(委員)上田幼稚園では、地元の山に登ろうということで、初めて太郎山に登ると聞いている。

(委員)太郎山をベースにしながら初日の出ツアーとか、一般のお客さんが秋和の温泉を有効に活用できれば、地域の活性化にもつながり、地元が元気になる。その火付け役を公民館でやってもらいたい。

(委員)親子のびのび広場の講師、澤路さんは多方面でも広く活躍されていて、評判が良い。また、ゲームとインターネットに関しては、その仕組みをまず大人が知らないといけないと思う。上塩尻では、マルチメディアセンターから講師を招いて学んだ。

(委員)親子のびのび広場で保護者は何を望んで参加するのか。

(事務局)参加にあたっては、事前の予約なしで来ることができるのが魅力となっている。

また、親子コンサートや母親がリフレッシュできるような多彩な内容もある。西部地域以外からの参加者もあり、地域の枠を越えての交流も盛んになっている。

なお、実施回数は年間 47 回で、ゼロ歳児を対象とした講座も含め、他の公民館にはない内容となっている。

(委 員) 残念ながら、子どもたちが安心して這いまわれる場所がこの公民館にはない。だから公民館の早期建て替えは必要だ。子育ての講座は、これからますますニーズが高まるのではないかと。母親たちの情報交換の場所としても必要である。公民館を身近に感じ、公民館デビューできるきっかけづくりとなる講座でもある。また、信学会の幼稚園では、0歳から3歳児までの教育に力を入れているから、公民館とタイアップすることで1本の柱として立てていけると思うので、是非研究していただきたい。

## (2) 公民館登録団体について

(事務局) 西部公民館は昨年度の 63 団体から高齢化による会員の減少などで 4 団体減少して 59 団体、塩尻地区公民館は昨年度から 1 団体増加して 26 団体となっており、活発な活動が行われている。

(委 員) 了承

## (3) 公民館を巡る諸課題について

(事務局) (平成 26 年度課の目標管理シートの内容を説明)

(委 員) 学校の米づくりは、今年から「西部米づくり体験実行委員会」を立ち上げて動き始めた。これはすごいことをやってくれた。農業後継者の問題や高齢化でやっていけないなどの理由で一時ストップがかかったものであるが、JA や活性化組合に頼んでもうまくいかない。西小学校の校長は、子どもたちに米づくりを通じて実際に体を使って体験させる授業をやりたいと考えている。今後、継続させるためには、米づくりに関する経費が今のままでは足りないのではないかと。ネックは、ボランティアだ。塩田中学校もボランティアがネックになっている。単に無報酬のボランティアという考え方では長く続かない。有料ボランティアという視点も必要ではないか。

学校と違って、色々なネットワークを持っている公民館だからこそ、このような米づくりの事業ができる。善意だけに頼っていては、やがて行き詰まることが考えられるので、組織をきちんと整備する必要がある。もう少し経てば方向性が出てくると思う。

公民館だよりで募集していた西小学校ボランティアは、どのような状況か。

(事務局) 西小学校のボランティアは新しい分野の開拓ができたことと、児童と保護者向けチラシ等で周知徹底が図られてきている。また、第三中学校のボランティアも新規で 3 名増え、18 名となり、熱心な活動が行われている。

(委 員) 真田丸の放映が決まったが、西部公民館としての取り組みはいかがか。

(委 員) 大河ドラマの影響は一過性のもので、打ち上げ花火の面もある。ある時期はお客様が全国から押し寄せると思う。金沢新幹線の開通もあり、放映決定はタイムリーだと思うが、市全体で無理に真田氏をやる必要があるのか疑問に思う。放映後にどうしていくかが問題ではないか。

(委 員) 真田氏ばかりが上田ではないという考え方もある。

(事務局) 西部地域の中で、真田氏の関連で史跡があったり、有識者がおられれば関連した事業ができる。審議委員の皆様にもお伺いしたいところでもある。しかしながら、西部地域は、上田城跡にも近い場所なので、他の公民館の取組状況を見ながら、真田氏に関連した講座を検討していきたいと考えている。真田丸は観光的要素が大きいのではないかと。重要なのは、放映後の取組みだと考えている。

(委 員) 上田には真田氏の記念館もなく、拠り所のような場所は何もない。全国から大勢のお客様が来てどうするのか。メリット、デメリットの検証をした方が良い。

#### 4 その他

(委員) 毎月発行の「公民館だより」は見やすく評判が良い。また、全戸配布だから良い。多少経費がかかっても隣組回覧でなく全戸配布を続けてほしい。

(委員) 西部公民館は他の公民館でやっていないような特長あるものを主体に取り組んでいけば良いと思う。

(委員) 米づくり事業は大変だったと思う。大勢の人たちにこの取組を知ってもらえるように、積極的に情報発信してもらいたい。そうすれば、知らない人でも興味が湧いてくるのではないか。

(委員) これからは実際に自分自身も公民館事業に参加し体験していきたい。

(委員) 少ない職員でこれだけの事業をやるのは大変だと思う。審議会でも協力できる部分があれば協力していきたいので、声をかけてほしい。

#### 5 閉 会 (事務局)